

NPOによる地域学習、環境学習の取り組み

NPO法人地域学習センターゆ～らっぷ 原 久太郎

1. 小学校理科5年「動物や人のたんじょう」

小学校理科5年の教材に「動物や人のたんじょう」があって、サケの一生を扱っている。

小学校理科の教材「サケ物語り」を作成するにあたり、ユーラップ川でサケの生態を追っているカメラマンの稗田一俊氏の映像データを提供していただくとともに、e スクエア^2に参加いただいた現場の先生方とユーラップ川の観察を行ってきた。

我々は、サケが遡上する川では自然産卵が行われるのが普通だと思いがちであるが、自然産卵が行われる川は日本ではほとんどなく、北海道でも限られた川でしか自然産卵は行われていない。



2. e スクエア^2の取り組みからNPO活動へ

平成13年度のe スクエア2では、「地域からの発信を支援する国際教育教材交流ネットワーク」をテーマにして以下の取り組みを行った。

- ・教師が自ら教材をつくることのできる環境
- ・子どもたちの表現を支援する仕組み
- ・海外に発信することを日常的に行うことのできる仕組み
- ・これらの環境と仕組みを継続して提供する場の確保

(1) 教師が自ら教材をつくることのできる環境

教師が自ら教材をつくることのできる環境に関しては現在も以下の2つの取り組みが大学と現場とで共同研究が行われている。

- ・数学教材をつくる GC / J a v a の開発と普及
<http://www.dainippon-tosho.co.jp/koryu/sugaku/w2j/frame.htm>
- ・教育用プログラムの開発 ドリトルの開発と普及
<http://www.logob.com/dolittle/>

(2) 子どもたちの表現を支援する仕組み

子どもたちの表現を支援する仕組みとして iFriend を開発し、無償でご利用いただいている。

現在もそのサポートを行っている。

<http://www.dainippon-tosho.co.jp> <http://www2.zeta.co.jp>

iFriend は、児童の発信ツールとしてのインターフェースに優れており、低学年からの利用はもちろん、教師にとっても Web ページをつくる道具として現在も活用されている。



現在は、写真の整理機能の充実、フラッシュムービーの貼り付けなど、児童の発信ツールとしての機能を高める改良を行っている。この改良された機能を持った iFriend は NPO 法人地域学習センターゆ～らっぷ で公開する予定である。

(3) NPO 活動に発展

e スクエア^2 の活動を継続して行っている現場の先生方を中心にして、企業からもメンバーが集まって「NPO 法人地域学習センターゆ～らっぷ」を昨年12月7日に設立した。このNPOの活動には2つの柱がある。

- ・環境教育を基盤とした地域学習の支援
- ・地域学習を推進するための教育用ソフトウェアの開発

e スクエア^2 の活動は、NPO の2つめの柱である教育用ソフトウェアの開発という非営利活動に継続・発展している。

3．環境学習、地域学習の取り組み

(1) 環境学習の取り組み

地域学習の取り組みは、ユーラップ川で川の観察を行っている厚沢部町立鶺小学校の総合的な学習の時間のとりくみを支援することから始まった。

鶺小学校では1998年から総合的な学習の時間に「川遊び」を全校で取り組み、遊びの中から川に流れる大量の枯葉はどこに行ってしまうのかという疑問を持ち、その解決のために2003年度の現在も川の観察を行っている。

枯葉の行方を追ううちに、川が海に栄養を届けていることに気づき、宮城県で山に木を植えている漁師さんのところまで行って話を聞いたり、サケの生態を追っている稗田氏を招いて話を聞くなどの活動を行ってきた。

そして、ユーラップ川でサケが遡上し産卵して死亡しホッチャレといわれる状態になることを観察した結果、サケが海から栄養分を山に届けていることに気づいていくことになった。

この鶺小学校の川の観察会の様子は <http://www.urap.org> にレポートされている。

(2) 地域学習の取り組み

NPO法人地域学習センターゆーらっぷでは、03年2月1日、北海道山越郡八雲町教育委員会による全町女性研修会「総合学習と地域を考える」を後援して、地域と学校との連携について、町内のお母さんたちと研究会を行った。

鳴門教育大学の村川教授が「総合学習と地域の連携」で講演を行い、村川研究室の山中氏が和歌山県熊野川町立熊野川小学校で取り組んできた「たんぼ水族館」の紹介をした。子どもたちがそれまでTVゲームばかりで遊んでいたのが、たんぼの中で泥遊びを楽しむようになり、小動物たちへの関心を持ち自然環境について気づいていくようになった。

この講演を通して、どんなに自然環境の豊かな地区であっても子どもたちは都会の子どもたちと同じで、子どもたちは大人が意識して自然に導かないと関心をもたないものであることを、お母さんたちは痛切に感じていった。そして、総合的な学習の時間が地域の活動と連動して行える時間であることを伝えることができた。

鶺小学校の子どもたちのユーラップ川での体験、熊野川小学校のたんぼ水族館での体験、こうした体験が自然環境はどのようにあるべきかを考えるきっかけとなっていくであろう。内閣府管轄のNPO法人としてこうした取り組みを全国に展開していきたい。



4．教育用ソフトウェアの開発と国際交流

eスクエア^2は、地域からの発信の支援とともに「国際教育教材交流ネットワーク」を構築することが目的であった。

当初の目的と若干手法が異なるが、教育用プログラミング言語「ドリトル」では、日本語によるプログラミングから多国語対応に改良を加え、現在は英語版とハングル版の開発が進んでいる。

図は左から日本語によるプログラム画面、ハングルによるプログラム画面、ハングルによる実行画面である。



国際交流と地域からの発信との関連でいえば、NPO会員である小野木氏が韓国の留学生と日本人との相互語学学習の事務局を担当している。<http://www.hana4.com/> でその活動を知ることができる。こうした取り組みもNPO活動の地域学習と国際交流活動として支援していきたい。